

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○ 学校教育目標の実現を目指して、活力と魅力あふれる学校づくりに取り組めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての教員が、子どもの考えを生かすことに意を用いた魅力ある授業づくりに取り組んでいます。 ・ 児童支援専任教諭を中心とした組織的な指導体制が確立しています。 ・ 保護者や地域の教育力を生かした教育活動が行われています。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
<p>確かな学力 (学習指導)</p>		<p>「主体的・対話的で深い学び」の成立を研究の視点として「自分の成長を確かめながら意欲的に学び続ける子ども」の育成に向けて授業改善に取り組んでいる。</p>	<p>① 重点研究教科を社会科、生活科とし、授業研究を通して学級経営・児童理解の充実を図る。 ② 基礎学力の定着を目指し、「取り出し・入り込み」指導の充実を図る。 ③ 学校図書館の積極的な活用を促進し、読書活動の充実を図る。</p>
担当	推進委員会		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力学習調査結果の概要と分析

30年度1年生から6年生までの学力学習状況調査の結果を総括的に分析すると、学校生活への意欲や、学習への関心はおおよそ市内の平均に達している。また、意見の発表や、討論についてはおおむね市内の平均を超えている。教室での話し合い活動や、校内校外での学習活動場面での意見交換などが学力へとつながっていると分析できる。しかし、難しい言葉の理解や文章の記述などの言語力や算数の計算力など、基礎基本の知識理解については、さらなる伸長を図る必要がある。これらの学力の分布をみると、いわゆる富士山型の標準正規分布というよりもふたこぶらくだ型の分布を示すものと考えられる。昨今の様々な教育研究で言われる学力の二極化が起こってきていると考えられる。

(2) 分析を踏まえた課題と手立て

分析を踏まえ、基礎基本の定着が喫緊の課題である。基礎基本の定着を図るため、特別支援の充実が最も有効な手段と考えている。これにより、中間層の増加が考えられる。これらの取組を継続的に行っていくことが重要である。

3 結果を踏まえた学年の具体的取組

1 学年

- 小学校生活の基礎となる学習習慣が身に付くよう、基礎的な学習や具体物を使っての学習を繰り返し、定着を図る。
- 自分の思いをのびのびと表すことができるよう、発言やつぶやき、ノートや学習カードの記述などを学級で共有する。また、聞く姿勢、友達の考えを受容する態度を養う。
- 本に親しみ、読書の習慣が付くよう、学校図書館を継続的に利用していく。

2 学年

- 聞く姿勢や自分の思いを発信することを大切にし、みんなで学ぶ姿勢を身に付けられるようにする。
- ドリルやプリントなどの基礎的な学習を繰り返し、安心して取り組めるようにするとともに、学力の定着を目指す。
- 既習の知識とつなげることで、取り組んだことに自信がもてるようにする。
- 学校図書館を利用して、本に親しむだけでなく、学習に活用する経験も積む。

3 学年

- 漢字、計算ドリルや学習プリントで、学んだことを反復学習していくことで、知識の定着を図れるようにする。
- 継続的に音読を行うことや国語辞典を活用して学習に取り組むことで、語彙を増やすとともに、それらを学習場面で活用し、学習を深めることができるようにする。
- 社会科や理科の学習を通して、問題追究しながら学習に取り組もうとする学習姿勢が育まれるようにする。

4 学年

- 国語では、漢字の習得や語彙の獲得を目指し、反復練習を続けていく。語彙の獲得に向けて国語辞書・漢字辞典を活用していく。
- 算数では、基礎基本の定着と確実な伸長を図る。また、三角定規・分度器などの器具の扱いが確実に習得できるようにする。
- 各教科で学習ノートづくりを指導していく。自分の言葉をたくさん書き残すノートづくりを進める。

5 学年

- 国語では、スキルタイムや宿題等を活かし、漢字の読み書きの定着を図っていく。また、文章を読んだり書いたりする機会を意図的に設け、書くことの習熟を図るようにする。
- 算数では、計算スキルなどを利用し、基礎基本の定着を図るために繰り返し練習する機会を設けていく。

6 学年

- 生活意識や学習意識の高まりを、学力の定着へとつなげるように努めたい。
- 国語では、書くことを苦手とする傾向が見られた。自分の思いを語るだけでなく文字で表現する機会も意図的に設けていく。また、図書資料を生かした学習も図っていきたい。
- 算数では、既習事項を生かしながら問題に取り組む場面を設ける。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。